

無政府主義図書館 (Japanese)

# バグ宣言

anarchist\_neko

anarchist\_neko  
バグ宣言  
2023/06/15

[https://anarchistneko.wordpress.com/2023/06/15/bug\\_manifest/](https://anarchistneko.wordpress.com/2023/06/15/bug_manifest/)  
:2024/09/21  
Public domain.

[ja.theanarchistlibrary.org](https://ja.theanarchistlibrary.org)

2023/06/15

# 目次

0 .....	3
1 .....	3
2 .....	3
3 .....	4
4 .....	4
5 .....	5

## 0

わたしはバグである。わたしたちはバグである。

## 1

バグとしてのわたしたちは、社会システムが「正常」に動くのを阻害する。その脆弱な点を露わにし、攪乱し破壊する力を持っている。だから、社会システムはその一見理路整然した「秩序」を守るため、〈バグ抜き〉を図る。わたしたちの存在を認めることを回避し、あるときは積極的に排除し、自らの維持に努める。あるいは、allo シスヘテロ家父長制や資本主義に都合の良いようにわたしたちの PRIDE / 尊厳を篡奪し、さも資本主義的家父長制のフィーチャーの一つであるかのように扱ってみたりする。わたしたちは〈修正〉の対象となり、見せかけだけの〈アップデート〉がなされた世界で、死体の形骸としてのみ残ることになる。そうやって、この抑圧的なシステムは維持されている。

## 2

神話によれば、世界は単純で整然とした操作の連続で創造され、楽園と「自由」を騙る系譜の中で、格子状の傷を、わたしたちの身体に、精神に、社会体制に、刻んできた。n 歳迄に 1 人の「異性」と婚姻し、子を産み育てるよう、わたしたちは教えあい続けてきた。賃金労働に参与し、資本家たちの懐を肥やししながら、自らも資本家になる夢を抱くのが「社会人」であると教えあい続けてきた。「美」しくあれと教わった。「正」しくあれと教わった。「普通」であれと教わった。だが、システム様には不都合なことに、わたしたちはバグであった。その系譜に——幸運ながら——属することはできなかった。わたしたちのバグった身体は、生命は、尊厳は、代わりにこの時計仕掛けの〈普通らしさ〉を破壊しかねぬ脅威となり、その代償として、銃口と糖衣の毒薬を向けられることとなった。このシステムは、そうやって「普通／正常」でないわたしたちから、わたしたちをわたしたちにすすべてを奪おうとしながら、虐殺と生存を図り続けてきた。

### 3

バグであるわたしたちの取りうる行動は、二つしかない。甘んじてこのシステムの抑圧を受け入れるか、それともこのシステムを破壊する脅威であり続けるか。確かに、すべてをあきらめ、わたしでなくなることも選択肢だろう。だが、わたしは、わたしとして、生きたい。あなたにも、死んでほしくない。わたしたちとして、ともに在りたい。ならば、このまま脅威であり続けるしか、道はないのだ。ならば、脅威であれ。攪乱せよ。破壊せよ、生き残るために全てを壊せ。〈修正〉も見せかけだけの〈アップデート〉も拒み、このシステムをその根源より打ち破れ。打ち破るしかないのだ。わたしたちは、このバグった身体とバグった精神を以て、手の届く瑕よりシステムを抉じ開け、見せかけだけの調った系図を捻じ曲げていくしかないのだ。これは単なる理想論的なマニフェストではない。生存のための戦略だ。

### 4

わたしたちは脅威である。このシステムを、その全てを、壊しうる剣を持っている。ときにその剣は小さなものにしか思えないかもしれないが、そう思うときほど切先はむしろ鋭い。そもそも、銃を向けられるのは、わたしたちを恐れているからに過ぎない。だから、「お前は弱い」と叫ばれる瞬間こそ、わたしたちに恐ろしい力があるときなのだ。張り巡らされた防御網が予期していなかった空隙から、独善的な防御機構が予想していなかった方法で、このシステムの矛盾に都合の悪い刃を突きつけている瞬間なのだ。そして、なによりも、わたしたちのバグは蓄積し、相乗する。わたしもあなたも、本来は孤立しているわけではない。恣意的に引かれた規範の境界を踏みにじり、ともに生存という反撃を始めさえすれば、わたしが日々生き続けることで積み重ねたユニークなバグと、あなたが日々生き続けることで積み重ねてきたユニークなバグは絡み合い、混じり合う。組み合わせさせたそれは何千倍もの力で、あらゆる方面から、あらゆる瞬間に、どんな個人が計画できるそれよりも独創的で破壊的な形で、このシステムを攻撃するのだ。

### 5

わたしたちは「異常」である。「逸脱者」である。「脅威」である。だから、これからも苦しまされ続けるだろう。傷つけられ続けるだろう。システムは、それが存在し続ける限り、われわれを〈修正〉しようと腐心し続けるだろう。だが、それはわたしたちのもつ可能性に対する恐れの見せかけでしかない。わたしたちがわたしたちであり続けることのもつ、希望と未来の証拠でしかない。だから、不安がるべきなのはわたしたちではなく、システムの維持に努める者らや、システムの恩恵を享受し続けたがる者らだ。譲歩や妥協の必要などない。わたしたちはバグである。バグで良い。〈修正〉されるな。〈修正〉を許すな。蓄積し、〈連帯〉せよ。攪乱せよ、破壊せよ。この抑圧的なシステムが崩壊する日まで、そしてその次の日まで、バグであれ。ともに生き残れ。長い闘争ののちには、だれにも奪えない虹をわたしたちの手で架ける日が訪れる。